

## 巻 頭 言

2021年度は、まさしく困惑と激動の時代でした。新型コロナの蔓延のため、研究所所員会議はオンラインで行われ、研究発表もオンラインでの発表となりました。また、本年度から、研究所所員会議と立正大学社会福祉学会（学内学会と略する）会議を兼ねることになったことも大きな出来事でした。今まで、一般教員は、学内学会に参加する機会は、総会と学会大会に限定されていましたが、研究所所員会議において、学内学会の動向や学会大会の進捗状況を知ることができるようになり、学内学会もより身近なものとして実感できるようになったのではないのでしょうか。そして、なにより、2021年度の教授会において、学内学会が学部事業として正式に承認されました。

筆者は社会福祉研究所長と学内学会会長職を兼務しており、身に余る重責を与えられています。研究所と学内学会の性格付けをより明確にして、運営に臨みたいと考えております。

本年報は福祉と教育という二つの領域に関わる領域の論文で構成されております。立正大学社会福祉学部は、社会福祉学科と子ども教育福祉学科という二学科から構成されており、この年報の論文構成も、本学部の特性である福祉と教育の連携や協働を重視する立場に基づくものです。

今後はさまざまな研究者、福祉・教育実践者、地域の実践家とのコラボレーションも重視していきたいと考えます。また、私たちの研究結果を地域へ還元していくことも本研究所の目的の一つに挙げることができます。本研究所の活動も、この目的に照らして、研究活動を深めてまいりたい所存です。

一方、学内学会は、より学生教育に資するための学会として、平たい言葉で申し上げますと、学生のためになる学会として、運営に努力してまいりたい所存です。

関係各位のご理解とご厚誼を賜りますように、お願い申し上げます。

2022年7月

立正大学社会福祉研究所 所長 村尾泰弘